



愛知県 W邸
設計 岩橋建築

乗ることができなくなった愛機と暮らす、 バリアフリーフラットガレージハウス。

photo & text / Dan-KOMATSU(小松 男)

長年楽しんだクラシックミニのあるフラットハウス。

W邸を紹介してくれた『岩橋建築』はこれまでも多くのガレージを手掛けてきており、代表の岩橋氏自身もクルマ好きであることから、ガレージライフに求められるものを良く理解されている。その岩橋さんからあらかじめ送られてきたW邸の写真を見た際には、オールドミニが収まる素敵なフラットハウス

(平屋)だという第一印象だった。実際に目の前にしたW邸は広々とした敷地に、使い勝手の良さそうなサイズで建てられたビルトインガレージを有するフラットハウスだったことは確かだった。しかし、フラットハウスにしたのには理由があったのだ。

「10年程前のことですが、ある

事故で足が不自由になってしまいました。大切にしていたミニにも乗ることができない上に、以前住んでいた家ではガレージまで自由に行くこともできなかったため、一度はミニを手放そうかと考えたこともあります」と車いすで出迎えてくれた施主のWさんは話す。

以前は他県に住んでいたWさん

だが、息子さんが自身の家の近くに土地を探し出し、バリアフリーハウスを新たに建てることを決心。子どもの頃からWさんの背中を見て育った息子さんもクルマ好きであり、以前所有していたホンダ・ライフ360の繋がりて、バリアフリー住宅造りに慣れた設計士と出会い相談し、プランニングが進め



080 ガレージのある家ベスト100

られた。

ガレージに収められる愛機は、1966年式のモーリス・ミニで、日英自動車販売された37号車とのこと。この個体自体は2005年に購入したものだが、それ以前もWさんはミニを乗り継いできており、ミニのオーナーズクラブであるマッチボックスジャパンの古からのメンバーでもある。現在、Wさんのミニはしばしば息子さんがハンドルを握り、調子を見ているそうだ。

接道からエントランス、ガレージまで緩やかなスロープで繋がれており、車いすのままでも自由に移動することができる。さらにガレージと室内のフロアも段差をなく

設定することで、いつでも大切なミニに触れることができるようにした。ガレージの壁面にはOSB合板が採用されており、クラシックミニ特有の優しい雰囲気と良くマッチしている。ガレージの隣には昔から集めてきたレコードを楽しむためのオーディオルームも用意された。

「この体になってからというもの、色々と思うようにならないこともありますが、やはりガレージにミニを置き、いつでもそばに行って触れることができるのは嬉しいことです」とWさんは言う。愛するクルマと共に暮らす、バリアフリーガレージハウスでそれを実現したのだ。



1966年式のモーリス・ミニ。日英自動車販売された37号車だという。木のぬくもりを感じられるガレージが良く似合っている。



エントランス及びガレージ部分は外から見えるが、プライベートスペースは見えないように塀が設けられている。

W邸のディテールは、どこか昭和モダン建築的な雰囲気もありつつ、ミニ似合うようなオールドイಂಗランドテイストも感じさせる。



ホビールームとガレージ、どちらも満足しているというWさん。バリアフリーにしながらも上手く締め上げられていることが分かる。



近くにある有名な酒蔵の家が所有していた360坪の土地から120坪を譲ってもらった。カーベースにも余裕があり使いやすそうだ。



[Planning Data]

施主:Wさん
家族:ご夫婦
所在地:愛知県
竣工:2020年8月
敷地面積:約397㎡
ガレージ部面積:30㎡
構造:木造在来工法
外装仕上げ:ガルバリウム鋼板
内装仕上げ:OSB合板(ガレージ)
愛車:1966年式 モーリス
ミニ・クーバー 1275S Mk1

[Architect]

施工
株式会社 岩橋建築
愛知県半田市板山町13-154-1
Phone:0569-27-7492
<https://www.iwahashi-home.co.jp/>